

### 背景

- ・ インフラシステムの海外展開においては、運営・維持管理への参画を通じ、継続的に関与することが重要。
- ・ バルセロナ市は「スマートシティ」の先駆的都市として都市インフラの運営・維持管理を行っている。

### 目的

- ・ バルセロナ市における都市インフラの運営・維持管理及びスマートシティの取組について整理する。



スーパーブロックによる歩行者及び自転車優先の空間の創出（バルセロナ市・国政研撮影）



新設されたトラムの終着駅（バルセロナ市・国政研撮影）

### 内容

交通分野では、四つの異なる都市鉄軌道について、市、州政府、中央政府、複数事業者が関与する多層ガバナンスが確立。その枠組みの下、統一運賃制度を導入。

バルセロナ市が公共自転車シェアリングサービスを導入し、市民利用を中心に電動自転車及びステーション拡充を進める一方、主に観光客向けの民間サービスも併存している。トラムはPPPモデルが活用され、州政府・市と民間企業が役割を分担。

市は持続可能な都市交通計画（PMU2025-2030）を策定し、持続可能なモビリティ体系の構築を進めている。特にPMU2025-2030では「人々のためのモビリティ」を掲げ、「人」を中心とした移動分析に基づく交通計画により公共交通とアクティブモビリティの利用率向上を目指している。

国際発信の面では、Smart City Expo World Congressの開催を通じて、国際的なスマートシティ関連の情報発信の中心地となり、都市間協働及び官民連携のハブとしてイノベーション・エコシステムを形成している。

表 バルセロナにおける都市鉄軌道の運営主体

交通機関	運営主体	運営主体の分類
Rodalies	スペイン国鉄（Renfe）	国営（Renfe管轄）
FGC	カタルーニャ自治政府	自治政府運営（公営）
TMB	バルセロナ市 AMTU（都市圏自治体）	市営（公営）
TRAM	民間コンソーシアム	半民間（公的管理）

### まとめ

バルセロナ市はスマートシティ・エキスポの開催等を通じて世界的なスマートシティの都市間協働及び官民交流の拠点として機能している。

バルセロナ市において、複数の行政主体間の調整、PPPを活用した柔軟な制度設計及び市民参加型プロセスの積極的導入が、同市の持続可能な都市経営を支えていることを確認した。

特に、交通分野では、「人」を中心とした移動分析に基づく交通計画と統合的な管理の仕組みが整備されていることを確認した。